様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ９ 月　 ５ 日現在

機関番号：３４３０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2017
課題番号：２６３７０７７８

研究課題名（和文）長岡京・平安京近郊地域の研究－寺社史料を中心として－

研究課題名（英文）A Study of Nagaoka-kyo and Heiankyo Suburban Area - with Special Reference to Shrines and Historical Documents -

研究代表者
吉野　秋二（YOSHINO, Shuji）

京都産業大学・文化学部・准教授

研究者番号：５０４０３３２４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、長岡京・平安京近郊の地域社会の史的展開を考察し、評価するものである。
　古代都城制研究は重厚な研究史をもつが、重点は王宮の性格など都城内部の諸問題にある。本研究は、地域史の観点から、古代山城(背)国北部地域の展開を考察した。特に、上賀茂神社など主要寺社に関係する諸史料を綿密に分析し、寺社を核とする地域形成の実態を追究した。また、考古学・歴史地理学など隣接諸分野の調査・研究成果を批判的に検討し、現地踏査により検証した。対象地域には、通時代的・全体的考察が可能な多様な史資料が存在する。本研究は、それらを有機的に活用し、方法論的側面も含め、古代地域史研究の範となる研究をめざした。

研究成果の概要（英文）：The present study examined and evaluated the historical development of communities in Nagaokakyo and Heiankyo.
Japanese ancient city history research has a profound research history, but emphasis lies in various problems inside the city. In this research, from the viewpoint of regional history, the development of the northern part of ancient Yamashiro country was considered. In particular, we analyzed the historical materials related to major temples and shrines, and pursued the realities of regional formation centered on temples and shrines. In addition, critically examined research results such as archeology, historical geography, etc., it was verified by field survey. There are various historical documents that can be considered comprehensively throughout the era in the target area. In this research, we aimed at research that becomes an example of an ancient regional history research, utilizing them and including methodology.

研究分野：日本古代史

キーワード：地域史　長岡京　平安京　寺社史料　学際的研究

１．研究開始当初の背景

文献史学分野の日本古代都城制研究は、岸俊男『日本古代宮都の研究』（岩波書店、1988年）を基礎として、文献史学・考古学・歴史地理学などの共同により推進されてきた。平城京に関しては、佐藤信編『西大寺古絵図の世界』（東京大学出版会、2005 年）など、寺社史料を活用し、近郊地域も含めて地域全体の変遷を面的・通時代的に復原する試みも行われている。しかし、長岡京・平安京に関していえば、『京都の歴史』、『長岡京市史』など良質の自治体史は存在するものの、本格的実証研究は不足していた。

長岡京・近郊地域に関しては、山中章『長岡京研究序説』（塙書房、2001 年）など考古学分野の研究が研究史をリードしてきた。しかし、基本的な点でなお残された問題は多い。例えば、条坊復原に関しては、全体を９条８坊とした上で、北一条大路から２町分北側に北京極大路を想定する山中章説が現在の有力説である。しかし、想定北限を超えて条坊遺構が確認されること、想定八条大路以南で条坊遺構が確認されないことなどから、宮城域の規模・位置なども含めて見直し案が提示されている（國下多美樹『長岡京の歴史考古学研究』吉川弘文館、2013 年など）。

長岡遷都では、遷都以前から乙訓郡域に存在した地方寺院が「京下七寺」などとして位置づけられた。この点は、南都六大寺が建立された平城京、東寺・西寺が建立された平安京とは異なる長岡京独自の特色である。しかし、個々の寺院の実態に関しては、檀越氏族の如何など、基本事項が未解明のままである。

一方、平安京・近郊地域に関しては、文献史学分野の重厚な研究蓄積がある。古代史では、例えば、井上光貞「カモ県主の研究」（『日本古代国家の研究』岩波書店、1965 年、初出 1962 年）、岸俊男「山背国愛宕郡考」（『日本古代文物の研究』塙書房、1988 年、初出 1978 年）、中世に関しては、須磨千穎『賀茂別雷神社境内諸郷の復元的研究』（法政大学出版局，2001 年）などの基礎研究がある。特に、須磨の研究は、室町期の検地帳等を使用し、賀茂六郷（上賀茂神社膝下所領）の地域景観を条里坪付単位で詳細に復原したもので、地域史研究の範となる研究成果である。しかし、須磨の研究成果は、古代分野では、十分に活用されているとは言い難い。

以上、研究開始当初の背景（研究状況）について、長岡京・近郊地域、平安京・近郊地域それぞれに即して記した。

研究代表者は、平成 17 年～21 年度、奈良女子大学 21 世紀 COE プログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」（平成 16 年度～21 年度）に研究員として従事し、「奈良盆地歴史地理データベース」構築の一環として『平城京史料集成（二）一条坊関係史料一』（2007 年）を責任編集した。また、任用期間中、「神泉苑の誕生」（『史林』88 巻６号、2005 年）、「京の成立と条坊制（『古代日本形成の特質解明の研究教育拠点報告集』27、2009 年）など都城制に関する論文を執筆した。

また、2010 年には、科研費研究成果公開促進費の交付を受け、単著『日本古代社会編成の研究』（塙書房）を出版し、身分制・徭役制など古代の社会編成を追究した。さらに、地域社会、特に村落社会の実態的考察を深めるために、平成 23 年度～25 年度には、科研費研究として、基盤研究(C)「寺院史史料による古代地域社会の復原研究」を遂行した。この研究では、山城国広隆寺、讃岐国善通寺周辺地域を主要な対象として、寺院資財帳や荘園絵図を多角的に分析し、古代寺院を核とする地域形成の歴史的特質を追究した。

本研究では、以上のような研究状況と研究代表者自身の研究実績を踏まえ、先行研究の分析材料を改めて再検討し、新事実の発見を目指した。

２．研究の目的

本研究は、長岡京・平安京近郊の地域社会の史的展開を考察し、評価するものである。古代都城制研究は重厚な研究史をもつが、重点は王宮の性格など都城内部の諸問題にある。本研究は、地域史の観点から、古代山城(背)国北部地域の展開を考察する。特に、上賀茂神社など主要寺社に関係する諸史料を綿密に分析し、寺社を核とする地域形成の実態を追究する。また、考古学・歴史地理学など隣接諸分野の調査・研究成果を批判的に検討し、現地踏査により検証する。対象地域には、通時代的・全体的考察が可能な多様な史資料が存在する。本研究は、それらを有機的に活用し、方法論的側面も含め、古代地域史研究の範となる研究をめざす。

３．研究の方法

本研究は、長岡京・平安京近郊地域を対象とする古代地域社会の復原研究である。まず、主要分析素材である寺社史料に関して、基礎的検討を行った。古代の主要史料は、『長岡京市史』、『史料　京都の歴史』などに掲載されているが、主要寺社に関しては、中近世史料も含めて検討対象とした。

また、考古学、歴史地理学的追究、具体的には、地名調査、発掘調査報告書の通覧・検討などを行った。特に、(公財)京都市埋蔵文化財研究所、(財)向日市埋蔵文化財センターなどが発刊した発掘調査報告書に関しては、条坊関係、寺社関係の遺跡を中心に内容を精査した。また、京都在住の利点を生かし、頻繁に現地踏査を実施し、調査・研究成果の検

証を行った。

研究代表者は、勤務先の京都産業大学において、日本文化研究所兼務所員として共同研究「漢語・悉曇の日本における言語・芸術・思想への影響に関する研究」（2013 年度～2015 年度）、「京都の風土と文化が日本人の美意識の形成に及ぼした影響に関する研究」（2016 年度～2018 年度）などに参加している。また、学外では、科研基盤研究(A)「古代寺院の儀礼・経営に関する分野横断的比較研究」（研究代表者：京都府立大学菱田哲郎教授、2011 年度～2015 年度）、科研基盤研究(A)「古代「仏都圏」の社会と文化に関する地域史的・比較史的研究（研究代表者：京都大学吉川真司教授、2016 年度～2019 年度）の一環として実施されている古代寺院史研究会に参加している。これらは、上賀茂神社、関係者、京都市歴史資料館・学芸員、近畿地方の埋蔵文化財発掘調査担当者などとの学際的研究の場である。本研究の発表や、上記諸機関の担当者との意見交換の場として活用した。また、(公財)京都市埋蔵文化財研究所の発掘調査報告書の製作にあたっては、出土文字資料の解読調査などで協力した。

４．研究成果

本研究の主要な研究成果の概要を述べる。

第一に、平安京・近郊地域の社会・経済について、(1)吉野秋二「三春高基邸の「店」－平安京市辺の商業－」（館野和己編『日本古代のみやこを探る』勉誠出版、2015 年）、(2)吉野秋二「非人身分成立論再考」（『民衆史研究』第 90 号、2016 年）、(3)吉野秋二「古代の労働力編成と酒」（高橋照彦他編『古代日本とその周辺地域における手工業生産の基礎的研究』（大阪大学大学院文学研究科考古学研究室、2017 年）を執筆した。

(1)は、『宇津保物語』や長屋王家木簡などを分析素材として、平城京・平安京の市辺や山崎・難波津などに、院宮王臣家が「店」（「酒家」）を設置し、商業・金融の拠点としていたことを解明したものである。「酒」の生産・流通に焦点をあてた研究成果で、平安時代における淀川流域の地域経済の展開について、新知見を得ることができた。(2)では、中世の被差別身分である非人について、理論的・方法論的問題を中心に論点を整理し、研究の現段階を提示した。また、清水坂非人関係の主要史料について、解釈の再検討を行った。研究史の論点を腑分けした上で、自説の立場を示した。また、清水坂非人が居住する愛宕郡鳥部郷に関して、清水寺関係史料を読み直し、新知見を得ることができた。(3)では、奈良・平安時代の労働力編成における酒支給の意義について、『参天台五臺山記』の事例なども含め、関連史料を集成し分析し、工人や運輸労働者に対する酒支給が、「酒手」として一般化していたこと、京・畿内の都市域で「魚酒型労働」が日常的であったことなどを解明した。

第二に、史料論に関して、(1)吉野秋二「平安京跡左京九条三坊十町（施薬院御倉跡）出土の木簡」（『古代文化』第 67 巻第 2 号、2015 年）、(2)吉野秋二「安京跡左京四条一坊二町出土の木簡」（『古代文化』、第 68 巻第 2 号、2016 年）を執筆した。(1)は平安京左京南辺地区から出土した施薬院関係の木簡について解説したものである。この地域は、藤原氏の邸宅、関連諸施設が設置され、中世には九条家領に転化する地域で、分析素材の活用も含め、展望を得ることができた。(2)は平安前期の公的施設（ないし邸宅跡）から出土した出土木簡、具体的には、「難波津の歌」全文を仮名で墨書したもの、医書の習書木簡などについて、その内容を紹介し、意義を論じたものである。

第三に、研究史に関して、４本の書評、(1)吉野秋二「書評と紹介 國下多美樹著『長岡京の歴史考古学研究』」（『日本歴史』第 797 号、2014 年）、(2)吉野秋二「書評 海野聡著『奈良時代建築の造営体制と維持管理』（『建築史学』第 68 号、2017 年）、(3)吉野秋二「書評 俣野好治著『律令財政と荷札木簡』」（『史林』第 100 巻第 6 号、2017 年）、(4)吉野秋二「書評と紹介 磐下徹著『日本古代の郡司と天皇』」（『日本歴史』第 835 号、2017 年）、を執筆した。

(1)は、考古学分野における長岡京研究の成果で、地理学的視座も折り込み、最新の長岡京復原プランが提示した國下著書に対する書評。その成果を評価した上で、二条大路の評価など条坊復原に関する問題を中心に批判した。(2)は、「維持管理」なる新概念を導入した古代建築史学の成果、海野著書に対する書評。史料解釈などの実証上の論点、「技術」「中央」「地方」など分析概念の設定法など、海野著書の成果と問題点について、文献古代史研究者の立場から批評した。(3)は、奈良～平安時代中期を対象に、都城遺跡出土の荷札木簡などを素材に、財政機構を中心に律令国家財政の特質を追究した俣野著書に対する書評。荷札木簡を根拠に調雑物と贄の同質性を主張する俣野説に対し、俣野説に整合しない木簡の出土事例などを明示し批判した。(4)は、磐下著書は、日本古代国家の特質を、郡司制度、特に郡司任用制度の展開に視座を置き論じた磐下著書に対する書評。郡司任用制度研究における磐下著書の意義を紹介しつつ、郡司制の展開を直接的に規定した国司（制）に対する視座の欠落など、著書の問題点を批評した。

第四に、古代史研究全般に関して、吉野秋

二「日本古代の国制と戦争」(『日本史研究』第 654 号、2017 年）を執筆した。日本史研究会大会全体会シンポジウム「日本古代の国家と戦争」における同題の報告を活字化したものである。日唐の律令軍事制度を比較した上で、6・7 世紀を対象として、日本古代の国制の展開を軍事的側面に焦点を置いて追究した。在地首長制論に依拠する従来の古代国家成立論を批判し、倭王権の支配制度が律令制成立以前に一定の達成を遂げ、ゆえに律令制を短期間に体系的に導入し得たことを論じた。

以上、研究期間中に執筆・公表した論攷について述べた。

上記の執筆論攷以外に、口頭報告として、(1)吉野秋二「平城京における災異と救済」（奈良女子大学古代学学術研究センター主催 第 12 回都城制研究集会 都城の災異と弱者」、2018 年 3 月、奈良女子大学)、(2)吉野秋二「日本古代の国制と戦争」(2016 年度日本史研究会大会全体会シンポジウム、2016 年 10 月、立命館大大学大阪いばらきキャンパス)、(3)小檜山一良・吉野秋二「平安京跡左京九条三坊十町(施薬院御倉跡)の発掘調査と出土木簡」(木簡学会第 36 回研究集会、2014 年 12 月、平城宮跡資料館講堂)、(4)吉野秋二「平安前期の貴族邸宅と庭園」(第 29 回平安京・京都研究集会「平安京の貴族邸宅」、2014 年 11 月、京都産業大学むすびわざ館)、(5)吉野秋二「日本史学からみた仮名墨書土器」(京都産業大学日本文化研究所主催シンポジウム「「かな」という文字を考える―墨書土器から見えてくるもの―」、2014 年 9 月、京都産業大学むすびわざ館）を行った。(2)(3)については、前述の執筆論攷に成果が反映されているので省略し、他について概述する。

(1)では、宝亀４年(774)の左右京賑給に関する一連の史料を足がかりに、宝亀年間に、疫神に対する意識、一般飢疫民の救済重視など、京における災異時の対応が変化し、それが承和期、貞観期の展開に継承されることを解明した。また、御霊会の成立・展開など、平安前期の平安京周辺地域の動向についても言及した。(4)は、平安前期の貴族邸宅について、藤原良房染殿第と、藤原良相西三条第を中心に、その特色を分析した。考察にあたっては、葛野郡域・愛宕郡域に所在する離宮・別業の使用形態との比較も行った。(5)では、平安京右京三条一坊六町跡（藤原良相西三条第跡）から出土した仮名墨書土器について、解読調査時の知見も踏まえ、遺物の意義について、日本史学の立場から知見を述べた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 9 件）

① 吉野秋二、書評 俣野好治著『律令財政と荷札木簡』、史林、第 100 巻第 6 号、pp118～123、2017、査読有
② 吉野秋二、書評と紹介 磐下徹著『日本古代の郡司と天皇』、日本歴史、第 835 号、pp92～94、2017、査読有
③ 吉野秋二、書評 海野聡著『奈良時代建築の造営体制と維持管理』、建築史学、第 68 号、pp109～115、2017、査読有
④ 吉野秋二、日本古代の国制と戦争、日本史研究、第 654 号、2017、pp28～49、査読有
⑤ 吉野秋二、古代の労働力編成と酒、高橋照彦・中久保辰夫・上田直弥編『古代日本とその周辺地域における手工業生産の基礎的研究』(大阪大学大学院文学研究科考古学研究室)、pp365～374、2017、査読無
⑥ 吉野秋二、非人身分成立論再考、民衆史研究、第 90 号、pp17～25、2016、査読有
⑦ 吉野秋二、平安京跡左京四条一坊二町出土の木簡、古代文化、第 68 巻第 2 号、pp129～131、2016、査読有
⑧ 吉野秋二、平安京跡左京九条三坊十町（施薬院御倉跡）出土の木簡、古代文化、第 67 巻第 2 号、pp151～152、2015、査読有
⑨ 吉野秋二、書評と紹介 國下多美樹著『長岡京の歴史考古学研究』、日本歴史、第 797 号、pp584～598、2014、査読有

〔学会発表〕（計 5 件）

① 吉野秋二、平城京における災異と救済、奈良女子大学古代学学術研究センター主催　第 12 回都城制研究集会 都城の災異と弱者」、2018/3/18、奈良女子大学（奈良県・奈良市）
② 吉野秋二、日本古代の国制と戦争、2016 年度日本史研究会大会全体会シンポジウム、2016/10/8、立命館大学大学いばらきキャンパス（大阪府・茨木市）
③ 小檜山一良・吉野秋二、平安京跡左京九条三坊十町(施薬院御倉跡)の発掘調査と出土木簡、木簡学会第 36 回研究集会、2014/12/7、平城宮跡資料館講堂（奈良県・奈良市）
④ 吉野秋二、平安前期の貴族邸宅と庭園、第 29 回平安京・京都研究集会「平安京の貴族邸宅」、2014/11/02、京都産業大学むすびわざ館（京都府・京都市）
⑤ 吉野秋二、日本史学からみた仮名墨書土器、京都産業大学日本文化研究所主催シ

ンポジウム「「かな」という文字を考える
―墨書土器から見えてくるもの―」、
2014/9/27、京都産業大学むすびわざ館
（京都府・京都市）

〔図書〕（計 1 件）
① 吉野秋二　他、勉誠出版、『日本古代のみやこを探る』、2015、640

６．研究組織
(1)研究代表者
吉野　秋二（YOSHINO, Shuji）
京都産業大学・文化学部・准教授
研究者番号：50403324